

令和元年度宅地建物取引士本試験 解答予想 (R1.10.23現在)

日本マンパワー

下記の正解番号は解答予想として、また、合格予想点は問題の難易度から、いずれも当社が予想したものです。
試験結果等が確定したものではありませんので、ご注意ください。
また、本解答予想や試験内容に関するご質問は、対応いたしかねますので、予めご了承ください。

問題1	問題2	問題3	問題4	問題5	問題6	問題7	問題8	問題9	問題10
1	4	1	4	2	2	1	2	4	1
問題11	問題12	問題13	問題14	問題15	問題16	問題17	問題18	問題19	問題20
3	4	3	3	4	1	4	2	3	1
問題21	問題22	問題23	問題24	問題25	問題26	問題27	問題28	問題29	問題30
1	3	2	4	3	4	1	4	3	4
問題31	問題32	問題33	問題34	問題35	問題36	問題37	問題38	問題39	問題40
1	4	3	2	4	2	3	2	3	2
問題41	問題42	問題43	問題44	問題45	問題46	問題47	問題48	問題49	問題50
1	1	2	3	1	1	4	2	3	4

●合格予想点 35点または36点

<試験概要>

●全般的な難易度の印象

権利関係は昨年と比べて正しい文章を選択する問題が多かったので、権利関係全体では難しかったと思われます。法令上の制限は、建築基準法の2問と土地区画整理法の1問が難しかったので、法令上の制限全体では例年より難しかったと思われます。税金問題の2問、地価公示法の1問及び問46～問50のその他法令等の問題は例年並みの難易度であったと思われます。宅建業法の問題は、昨年に引き続き最近の法改正内容である「建物状況調査」が3問で出題されており、また、報酬額の上限に関する告示の改正内容の出題もありました。また、個数問題での出題が6問と昨年よりも3問多かったが、昨年1問出題されていた組合せ問題の出題は今年度はありませんでした。宅建業法全体としては、昨年と同程度の難易度と思われます。以上から、昨年よりも全体としてやや難しかったと思われるので、合格点は、昨年より1～2点低い35点または36点と考えます。

●出題分野における今年の特徴的な出題

民法の問題では、問5の判決文を読ませたうえでの設問では、最高裁判決平成10年7月17日(無権代理と相続)から出題されていました。宅建業法では、上記の改正点からの出題がありました。